

刊夕日八十月二十



定部一冊五錢... 發行所 常磐毎日新聞社

劇と音楽の態

磐城中學校 根本邦雄

一、セレネード
 歌劇中にはセレネード(小夜樂)と云ふ曲がある新聞上のラヂオ版を見ても器樂の演奏に此のセレネードの言葉が毎日の様に出て來るのに誰しも氣が付くであらう。「小夜樂」は別名譯して「夜の歌」としても差支ない。

此の歌曲は夜になると戶外に出て歌つたり弾いたりする音樂の種類を云ふので、最初イタリーのナポリ特有の歌謡曲であり遂に全歐洲に廣まつたのである。

昔男等が夜になると我家を離れ愛人の窓邊に來り歌つたり弾いたりした男女間の愛情に使つたのが其の起源とされてゐる。極めて靜かなそして美しい曲で自由な形式を持つてゐる。

モツアルトの歌劇「ドンファン」の中のセレネータは民謡の様な質朴なそして飾らないものであるが、熱情は人の心に迫るものがあるアイヒベルグの喜歌劇「アルカンタラの醫師」は開幕が次の様なセレネードから始つてゐる

起きよや 戀の時に
 起きよや 戀は待つ

空には照る月輝くわが胸戀にはふさへる黄昏の時よ
 あゝ起きよや 心易く起さ出で
 慰めよや……

右の様な内容を持つのがセレネードの特有で充分に甘い戀のさゝやきがふくんでゐる。

セレネードの一種として見る事の出來る「ノクターン」があるがこれは器樂として發達したのでこれが有名になつたのは第十九世紀の初めイギリスのピアノストフリードで續いでポーランドの天才ショパンに依つて大成された。

二、バラッド
 歌劇中にこのバラッド(物語歌)と云ふのが歌はれる場合がある。此の言葉はイタリーの語のバラレ(踊る)から出たのでイタリーでは舞踏中で歌ふ曲を指して云つたものである。

綴り方

目白
 平第一校第五
 久保木武雄
 前の家で目白を飼つてゐる

七五三のお祝

可愛らしおの様子に
 洋服、オバー、マ、ト、帽子、子、ヨ、ル、等々
 平四 ツルヤ 電一四〇

この頃は軒下におく。僕は小鳥が大すきだ。家にゐるとさへづる聲がしきりに聞えてくる。

そばへ行つてみると、ばつたり聲は止んでしまふ。かごの中をきそく正し、く何度も何度も往復してゐる飼をあたへると、止り木に止つて頭を二三度左右にまはし考へ込むやうにしてやがて体を輕るさうにばた／＼と口笛をふくと目白は僕の顔をじつと見つめて又食べ始める。

ほんとうに目白はかはい、

移轉お知らせ
 毎度有難ふ相變ず御引立を願ひます
 七五三お祝履
 大賣出し
 新妻はきもの店
 平田町(元店の向ひ)
 電話 五七四番

冬服何柄

紺色柄物……三ツ揃……拾貳圓
 最新柄……三ツ揃……拾三圓五十錢
 スコッチ……三ツ揃……拾六圓五十錢
 最上紺黒……三ツ揃……拾九圓
 高級品……三ツ揃……拾九圓

平町正札堂洋服店 電四三六

吉田眼科病院
 平町三丁目、電話六八番

玉屋洋品店
 平町田町通電話六五六番

保險は人生の鍵
 ◎山は富士、保險は三井

一、老へ行く先の慰安になさんとする人々は……三井生命へ
 一、將來獨立の生計をなさんとする人々は……三井生命へ
 一、遺族の爲に扶助金を造らんとする人々は……三井生命へ
 一、人生は朝露の如し萬一に備ふる人々は……三井生命へ
 一、貯金よりも最も有利なる方法を求めんとする人々は……三井生命へ
 一、子息を完全に教育せんとする人々は……三井生命へ
 一、今日は人の身明すは我が身と思ふ人々は……三井生命へ
 一、保險加入の有無は自己信用の尺度と思ふ人々は……三井生命へ
 保險は身の爲め國の爲め轉ばぬ先の杖花も實もある三井生命を御奨め致します

三井生命平駐在社員 福島 寛利
 平町紺屋町二 佐藤 永春

お茶の値下斷行

本場銘茶の優良品を一段と品質を向上致しまして英斷的値下致しました、何卒御試飲下さいませ

煎茶四十目袋入 十錢より五十錢まで
 ほうじ茶四十目袋入 十五錢 第二號十錢

配 達 速

極端な収減出増に

明年度豫算行詰る

伏見町長の懸案も實現困難

僅かに産博の開設で息つく

新事業望み薄

平町では明年度豫算編成について年内に大體の目算を樹てる方針下に早やくも各課夫れ、内調査に取掛つたが依然として

要求額 は非常に多く

目下の見積りでは総額は今年度の廿八萬二千四百四十七圓を突破する模様であつて町當局の目標である二割減について五萬圓内外の削減は到底不可能とみられてゐる一方歳入

状態 を見れば新地租

法による地租附加税の増率に從つて二割近い増収となるが是とて六、七百圓の小額であつて其他は枕を並べて三角の赤字で總撫での形ちであり極端な収減出増のデレンマに陥つて全く手の出し様のない有様である、勢ひ伏見町長の懸案とする精神自治の建設、社會事業の

完備等 は勿論一切の

新規事業は到底望みなく僅かに上水道擴張工事の完了と昭和産博の開設によつて息をつく程度に落付く模様である

石城郡出 平町各種
身在満兵 團体募集

慰問金品

- 本日現在
- △城山坂 (五圓) 中村サダ
 - (參圓) 小野寛美(貳圓) 伊藤重善 東條祐一(壹圓) 五十錢) 鈴木廣成 近藤
 - 橋本芳太郎 藤井正
 - 芳 青沼鋒太郎 石川八
 - 十吉 青木貴一郎 緑川
 - 忠太郎(五拾錢) 村上直龜
 - 澁谷嘉傳治 岡野忠二郎
 - 青山哲太郎 上川保徳
 - 小松竹勇 馬上政七 坂
 - 本松衛 宮城徳丸 黒木
 - 喜一 工藤慶造 館野發
 - 三郎 坂内伊貞 上川恒

民謡平小唄「懸賞募集」

高雅にして趣味に富み平町を平易に紹介し 得るもの

一、入選賞典

- 一等(一名)五圓 二等(一名)三圓 三等(一名)二圓
 - 四等(一名)一圓 五等(一名)五十錢
- 選外佳作若干名に薄謝を呈す

二、審査員

追て發表す

三、募集締切

十二月末日

四、応募者ハ

平第一小學校内平町教育會又は常磐毎日新聞社民謡募集係へ申込むこと
応募原稿は平町教育會の版權とす
入選佳作は加除訂正することあるべし

五、注意

- | | |
|---------------|-------------|
| 廣記(壹圓) 江尻豊 高橋 | 平 鈴木廣吉 鈴木光逸 |
| 慶次郎 齊藤榮一 三村 | 佐々木潔 鈴木近之丞 |
| ゲン 小坂榮次郎 白石 | 猪狩忠三郎 明智忠吾 |
| 英夫 曾我直治 木田藤 | 聚樂園 永島磯惣太 吉 |
| 次郎 市川季熊 木村か | 田忠之助 名尾嘉作 佐 |

- 藤四郎 渡邊濟 安澤榮
- 作 大峯勝治 戸石清
- 高野五助 眞木鏘吉 新
- 妻唯祐 中澤光彌 大和
- 田豊吉 平塚二郎 中野
- 純 佐々木クラ 藤田ム
- メ 吉田芳枝 加藤敬義
- 鈴木利平 眞木正之 山
- 本稜威雄 安藤勝威 酒
- 井英吉 飯島兵司 荒忍
- 松浦昌 麻原吉五郎 櫻
- 庭孝一 落合榮吉 北村
- 東一郎 關口縁 木戸大
- 郎 木田傳吾 片寄滿
- 鈴木晴之 猪狩實治 佐
- 藤源亮 大柴尊二 鈴木
- 熊藏 鈴木兼好 馬目徳
- 三郎 大澤勝吉 山崎宣
- 吉 菅原正作 山下伊之
- 助 村上清一 高階三郎
- 菅啓治 松崎ツネ 君島
- 徳治 五十嵐榮次郎 名
- 畑庄八 島津松兵衛 後
- 藤千代松(參拾錢) 山本庄
- 司 青木ツル 片桐重治
- 山口重幸 吉成キクノ
- 小山親義 山崎富次郎
- 磯上誠平 飯田貞己 齊
- 藤覺 吉田幸三郎 吉田
- 茂喜 叶多喜久 小見仁
- 三郎 樋口徳子外にベル
- ベツト石輪三ヶ入一箱
- 木幡次郎 鈴木守男 小
- 林保雄 松崎惣吉 志田
- 秀雄 佐々木梧郎 穴井
- 重喜 佐藤與吉郎 高濑
- 水勇助 山口彌一郎 高
- 木喜一郎 鈴木明 鈴木
- 留藏 田村正人 國王喜
- 四次郎(貳拾五錢) 鈴木藏
- 吉 吉田光春 大谷省吾
- 淺野慶太郎(貳拾錢) 市川
- モト 本田角之助 森イ
- サミ 鈴木菊彌 永山一

- 彦 鈴木三郎 深谷寛一
- 郎 深石寛一郎 柴田道
- 大郎 舟生儀平 坂本ス
- ガ 稻葉庄太郎 内田倉
- 之助 八幡庄三郎 隅田
- 卓雄

勿來町から

金、銀、銅

生産の見込で 試堀願が許可

勿來町の町有地である大字酒井犬飼地内より金、銀、銅の生産あるを以て東京市

愈よ白米値上斷行

モチ米は一躍三錢高

平米穀商組合にては昨日より白米及び麥一升に付一錢宛、糯米同三錢の値上斷行をした

平町人事

- △立町三 鈴木清松氏六女 ユキ子
- △南町四一 古川兼松氏三男 古川竹男(二二)

往來

△町議關内正一氏 十七日午後六時上野より

難波醫院

平町新川町
【釜屋新宅向】
電話五〇二番

増田醫院

平町南町一
電話四八二

上田科醫院

平町南町
電話二一九番



お客様本位の

好適の眼鏡

これからの食物は...

鳥小焼

電話二六八番

鳥卵商 鳥菊

商取引照會の電報が殺倒し

政變以來平局大繁忙

平町に活氣漲る

疾風迅雷的の政變に依つて平町地方も諸物價昂騰の氣配を示しつゝあるは既記の如くにて一般に活氣を呈し好景氣の曙光を示して居るが平郵便局に於ける電報通信の如きも一時に増加を來し政變前は平常受信、発信、中繼等を合し九百通であつたものが一躍十四、十五の兩日は

各株式 期米各小賣卸

商問屋關係の商取引照會が殺倒し一千三百通に激増し其後も取扱數約一千通を下らず係員は轉手古舞の姿である

匿名で

貧困者へ

本日本署人事相談所へ年末に際し生活困難な人々と匿名で二者から二圓と一圓八十錢に左の文を添へて届け出た
私には子供が有りませんが母日子供のお小使ひとして一錢づつ玩具箱の中に入れて置きますが誠に恥かしい程ですが救濟方法のおたしに遊ばして下さいませし誠に手数をお

注射中毒で足腰立たぬ男

北海道根室市光和町生れ藤島秀俊（三）はナルコポン注射の中毒に罹り足腰も立たなくなり本日平町役場へ茨城縣の知り合ひに行く途中と稱しお助け下さいと注射液を貰ひに願出た

女房が家出

二人の子供を置き去りにして

宮城縣玉造郡大崎村大字下野目宇高畑今野操の内縁の妻佐藤ナミオ（三）は十一日二女（長男信夫（七）の二子を置き去りにして突然家出したが最近内郷方面で女中奉公をして居るらしいと判明本日平署へ捜索願出た

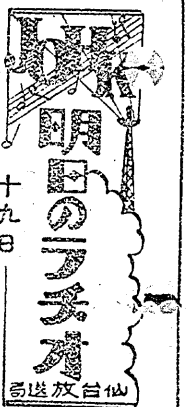
小川村の火防

石城郡小川村消防組では火災期の防火の爲め明十九日組合員總出動で防火設備を檢査する外當日より組合員が夜警を行ふ事になつた

賭け將ギで金を捲き上ぐ

朝鮮人をダマして

石城郡湯本町力石柏木倉藏（三）は十日全人方へ遊びに来た内郷村大字高坂字御殿山鮮人坑夫朴信郷（三）が全然將棋を知らぬのを奇貨として全町三兩中島與一方で賭け將棋を行ひ朴より廿五圓詐取せる事を平署に探知され檢査された



明日のラジオ

今晚の部

- 後六、〇〇（子供の時間）傳説童話げき「春日神社と鹿」奈良童話げき協會
- 後六、三〇 英語講座「初等科」寺西竹夫
- 後七、三〇 談話「在滿軍隊慰問使の話」菊地次郎
- 後八、〇〇 ピアノ管絃樂（府下荏原町新交音樂團を提出全時に納附する事になつた

明日の部

- 後八、四〇 歌澤唱 歌澤美代次 三味線 哥澤寅美 代助
- 後九、〇〇 浪花節「西山公漫遊記」宮川吉野
- 後九、四〇 時報 全國ニュース 氣象通報 番組豫告
- 後九、一〇 料理献立「鳥

郵便貯金の利子約千餘圓を食ふ

局員と偽り通帳を買込む

郵便貯金の残額記入の通帳を買入れ印鑑を偽造し巧みに利子を儲けて平署に檢査された犯人は既記の如くであるが其後平署では他にも全様手段を以て貯金通帳を買集める者あるを探知した結果十七日平町月見町吉山辰雄（三）及び飯野村字上荒川佐藤字文（三）の兩名を檢挙取調したが兩名等は共謀し八月以來平局員と稱して五十錢位残された通帳を買集めて居た事判明したがその件數百數十件に及び約千餘圓の利子を儲けて居たものであると

モミ抜く 通學道路

平第三小學校の道路問題はモミにモミ抜くこと既に二ヶ年餘何時着するともなく愚圖つき結局通學兒童は難澁して居る状態にあるので地元町民は早急に解決するやう町に歎願書を提出した

平職業紹介所報告

▲求人部
△豆腐賣子 卅才前後、賣上の二割（立町）
△菓子製造下働 廿才乃至廿三才、住込月五六圓（鍛冶町）
△採炭夫 四十才以下、請

藤沼醫院

科病柳花・科兒小・科内
院醫沼藤
應需院入

平町電話五〇七番
町屋七番

- ▲求職の部
△産婦看護 五十才前後 住込日給卅五錢位、四日間（豊岡村）
- ▲求職の部
△商店雜役 十九才、高卒 給料面談、（古鍛冶町）
△菓子賣子 卅二才、尋卒 菓子行商に経験あり（仲町）
△採炭夫 卅八才 尋三修（安達郡）



【載轉禁】

渡邊 默禪作
布施平八郎 畫

我が子歸る (9)
平兵衛は手をわな〜と
懐はせ迫込んだ調子で喘ぎ
〜言つた。

清作は口をへの字に結んで
身動きもせず膝に掛いた
手首を視結めてゐた。源之
助はあをい顔を伏せたまゝ、
呼吸一つしなかつた。

「狂人と言つたのは無理ぢや
あるまい。此の十文字家
……と、徳川の八代
將軍吉宗公の御代から御用
を承はつた江戸草分の老舗
だ、いつか俺の代まで連綿
として傳はつた此の十文字
家の家をつぶしにかゝつた
奴は、た、誰だッ。先祖代
々の汗と血とから出来上つ
た財産を提出して、片ツ端
から酒や女に打棄り込んで
さん〜阿呆の真似をして
廻る奴にとつたら面白から
うが。責任のある親父の身
になつて見ろ、先祖に對し
て何と申譯があるッ。世間
の目は従つちやあぬない
皆な横に裂けてゐる。眞直
なことを見るのが嫌ひで曲
つたことを見るのが好きだ
だから好いことは見ても見
ぬ振り、凶いことなら手を
拍いて歡んで笑つてゐる。
ささきは世間の笑ひ物にな
るのを名譽だと思つてゐる

のか。このた、た、戯氣奴
ッ、見ろささまのお蔭でこ
の家はとう〜破産今にこ
の親が、齡をして、ろ、
ろ、路頭にま、ま、迷はな
ければならぬやうになつた
是れも皆俺の教育が届か
なかつた報だから、俺は、

一句を聞きもらさじと同じ
くうつむいて居た。
「こら此處に居る妹を見ろ
何の罪もないこの千代まで
卷添を食はされて惨めな思
ひをさせるのが、か、か、
可哀想と思はないか。ふ、
ふ、不幸者奴、どの顔さげ
て此の親に遇ひに来たッ。
か、か、歸れッ直と歸れッ
俺は手前達には用がない、
親父ぢやない、はやくそこ
を立去れ。」
強度の昂奮に物恐ろしい
ほどの形相となつた平兵衛
は、もう臥てはゐられぬと
いつたやうに勃々と体に波



あ、あ、諦めもされるがこ
此處にゐるささまの妹、此
の妹に……
源之助は此時全く死人同
様なあを白めた顔付きで
た〜ぶる〜とふるへて居
る、側に居る妹は今にも泣
き伏すばかり下をむいて居
る清作はじつと且那〜言

打たせて枕に突かせた手に
ウント力を入れ高く背を立
て、無理に起き揚がらうと
あせつた、先刻から涙にく
れてゐた千代子は惑て、そ
れを抑へとめて
「お父さん。お父さん。勘
忍遊ばして下さい。わ、私
が悪いです、もしお

父さん。ど、どうぞお腹立
ないやうに……お臥つて
らして下さいましよ、御
病氣に障りますから……
ねお父さん勘忍遊ばして……
……お見さん、お見さん
早くあやまつて下さい。」
平兵衛は千代子に押伏せら
れながら、右手を伸して枕
許にある藥櫃を掴んで思ひ
迫つていきなりそれを源之
助に投げつけようとするや
うな氣配だつた。千代子は
上から鼻とそのひじを押へ
た。二人の手は掴み合つて
縛のやうな顫動を起した。
源之助は、はら〜しなが
ら泣き聲になつて
「す、す、濟みません……
相濟みません、お、お詫び
をいたします。何卒お父さ
んお許し下さい。全く私が
悪かつたのでございます」

均一大賣出

店頭十錢均一の山
是非御来店を……

電二一四番

マツモトヤの

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
川崎巡 回文庫
電六三〇番
(申込次第規則書進呈)

看護婦急派
の求めに應
じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

耳鼻咽喉科専門
大和田醫院
平町南町
電一七〇

齒科醫開業廣告

平町 鍛冶町
吉田屋吳服西隣り
東京齒科醫學士中村文一

中村齒科醫院

十二月十五日より口腔外
科齒科一般の治療に従事
致しました

外科專門
花柳病專門
木村外科醫院

入院自炊の便あり
平町五丁目橋際
電話三〇九番

火災防火の一大革命
國民財産保全の一大福音
セロン防火劑現ける
セロン防火劑は從來の消火器や消火彈の様に火
を見て消すに非らずに事前に防火消火するのみなら
ず耐久力を増加せしむるを以て其利益甚大なり
使用個所
建築物の周圍、炊事場、風呂場、アンカ炬燵、
提灯、戸障子其他火氣の恐ある個所
本劑は實驗の結果其効力偉大なるを以て各警察署
町消防組の賞賛を辱ふせり
本劑は個人賣りは致しませんから御希望の方は
各町消防組又は火防組に御申込下さい
福島縣平町白銀町 (電話三九三番)

東北セロン商會
店主 櫻井清

御用命は印刷物の
常磐日印刷株式會社
電話三六〇番

藤沼醫院

平町紺屋町
電話五〇七番